

公開サロン

イングランドへ行ってきました

一部活指導がなくなった元高校体育教師の夏休みー

中学生のころから高校教師生活を終えるまで、自由時間の多くは「部活動／サッカー」に携わる時間でした。2025年3月末に高校教師としてのキャリアを終え、「第二の人生」がスタートします。そして8月19日から27日まで、ずっと行きたかったイングランドへ行ってきました!

いち早く近代化を成し遂げた英国のいにしえといまのすがたを満喫できました。もちろんサッカーをはじめとするスポーツの原点を感じるのがメインです。リバプールでプレミアリーグを観戦し、マンチェスターのフットボールミュージアムを堪能し、ロンドンではフットボールの聖地を訪ねました。

人生100年時代のセカンドライフ初年度をどのように過ごしているのか。「部活指導がなくなった元高校体育教師の夏休み」をご紹介します。(中塚義実)

2025年9月 公開サロン(通算347回)

イングランドへ行ってきました

一部活指導がなくなった元高校体育教師の夏休みー

【日時】 2025年9月26日(金)19:00~21:00 ⇒「はなの舞 茗荷谷店」で懇親会~23:00頃

【会場】 筑波大学附属高校 3F 会議室&オンライン(Zoom)

【テーマ】 イングランドへ行ってきました一部活指導がなくなった元高校体育教師の夏休み

【演者】 中塚義実(NPO 法人サロン 2002 理事長/元筑波大学附属高校教諭)

【参加者 29名】 ◎NPO 会員、○会員外のサロンファミリー、無印はサロンファミリー外

〈対面参加 15名〉

麻生征宏(株式会社 Gakken)、石田孝多(中央大学文学部 4 年)、○奥山純一(クーディップ株式会社)、景行崇文(国立スポーツ科学センター)、鎌田彰悟(筑駒サッカー部コーチ)、○小松俊介(筑波大学附属高校)、佐塚元章(元 NHK アナウンサー)、菅原恭一(藤沢清流高等学校)、鈴木博貴(筑波大学附属中学校)、○名方彦彦(NPO 文京教育トラスト)、◎中塚義実(NPO サロン 2002 理事長)、○野田直広(富士電機)、○丸山実花(お茶の水女子大学附属高校)、○横尾智治(筑波大学附属駒場中高)、細田卓次郎(筑波大学附属駒場中高・水泳部監督)

〈オンライン参加 14名〉

○安藤裕一(株式会社 GMSS ヒューマンラボ)、今澤絵梨菜(甲文堂)、○大久保こはる(中央大学 2 年)、○小池正通(La Esperanza)、◎小池靖(株式会社バイタル)、◎嶋崎雅規(国際武道大学)、高橋豪仁(奈良教育大学)、◎橘和徳(富山中部高校)、○田中俊也(三日市整形外科)、田中理恵(会社員)、○遠山諒(附属 121 回サッカー部)、長滝、◎野村忠明(埼玉ソーシャルフットボール協会運営委員/会社員)、○吉原尊男

【懇親会からの参加者】 ○大河原誠二

【報告書作成】 中塚義実

注)写真・スライドは、発表者およびコメント記載者が所蔵・提供

〈本日の概要〉

1. 退職~英国旅行まで(7~8月を中心に)

- ・那智勝浦町…日本ヤタガラス協会/中村覚之助周辺(7/12~13)
- ・富山市…「サロン in 富山」(7/18~22)
- ・南極~アフリカ~掛川・浜松(8/2~3)
- ・家族集合(8/7~9)⇒U-15・18 フットサル運営(青梅・立川 8/10~11)
- ・静岡市清水…「サロン in 清水」(8/16~17)

2. ところで…高校体育教師の夏休み(これまでといま)

- ・蹴球部の指導があった現役時代(着任のころ~子育て期~担任長)
- ・退職後の夏休み(2025)

3. 英国旅行(8/19~27 帰国) 概要ーフットボールを中心に

- ・ロンドン観光(8/20 & 25)
- ・湖水地方(8/22)
- ・フットボールを中心に(8/21、8/23~24、8/25)

【概要(演者より)] 注)2025年8月13日、サロンファミリー向けに配信した「通信」より

38年間務めた高校を2025年3月末で退職し、週1回の大学非常勤以外は自由時間。「やりたいこと」や「これまで(あまり)できなかったこと」に取り組んでいます。「せなあかんこと」は後回し気味?。「やりたいこと」はNPO サロン 2002 関係だけでもさまざまあり、日々充実しています。

自分自身が中学生のころから教師生活を終えるまで、自由時間の多くは「部活動/サッカー」に関わる時間でした。

〈キーワード〉

イギリス旅行、ロンドン観光、フットボールの聖地、ラグビー校、イートン校、湖水地方、フットボール博物館、リバプール、ビートルズ博物館、エバートンFC、リバプールFC、グディソンパーク、アンフィールドロード、ヒル・ディッキンソン・スタジアム、プレミアリーグ、フリーメイソンズ・タバーン、フリーメイソンズ・アームス、那智勝浦町、中村覚之助、サロン in 富山、サロン in 清水、部活動顧問、サッカー部、高校教師の夏休み、中塚義実

NPO法人サロン2002主催「公開サロン」(通算347回)

イングランドに行ってきました

一部活指導がなくなった元高校体育教師の夏休み



日時: 2025年9月26日(金)19~21時

会場: 筑波大学附属高校会議室

演者: 中塚義実(NPOサロン2002理事長)

コロナ禍で部活動ができなくなったとき、「部活指導をしない先生はこんなに時間があつたのか」と改めて気づいたものです(この感覚は「働き方改革」とは真逆なので、いまでは大きな声では言いにくい)。

前期授業が終わった7月中旬から9月下旬まではほぼフリーな状態で、自分の時間を自分の意思で過ごしています。サロン in 富山・清水以外にもあちこち出かけ、旧友との再会を楽しみ、充電しつつ過ごしています。

そして8月19日から27日まで、ずっと行きたかったイングランドに行ってきました！

3月末までロンドン駐在の娘に会いに行くのがきっかけで、いち早く近代化を成し遂げた英国のいにしえといまのすがたを満喫しようと思います。もちろんサッカーをはじめとするスポーツの原点を感じるのがメインです。リバプールでプレミアリーグを観戦し、マンチェスターのフットボールミュージアムを訪問します。リバプールFCに勤める教え子と連絡を取りながら準備を進めており、彼との再会も楽しみです。

FIFA ワールドカップには1998(フランス)、2002(韓国と日本)、2006(ドイツ)、2010(南アフリカ)に“参戦”しましたが、今回は6年ぶりの海外で、英国上陸は初めてです。たったの1週間ですが、活字と写真・映像でしか触れたことのない英国で感じたこと、考えたことをお話しします。

人生100年時代のセカンドライフ初年度を中塚がどのように過ごしているのか。「部活指導がなくなった元高校体育教師の夏休み」を、関係者(家族等)の同意が得られる範囲でご紹介します。

サロンファミリーはもちろん、セカンドライフを過ごされている/迎えようとしている方々、元同僚や教え子の皆さん、遠慮なくお申し込みください。公開サロンはどなたでも参加できます。再会を楽しみにしています。

【追加情報】 注) 2025年8月30日、サロンファミリー向けの案内より

8月27日朝、無事イングランドから戻ってきました。10日連続猛暑日の東京の暑さがこたえます…英国ではこんな盛りだくさんな毎日でした。

- ・ロンドン市内観光(8/20)…バッキンガム宮殿の衛兵交代 ⇒テムズ川リパークルーズ ⇒シティめぐり
- ・フットボールのルーツ探訪(8/21)…ラグビー校、ウェンブリースタジアム、イートン校とウィンザー城
- ・湖水地方でくつろぐ(8/22)…「ピーターラビット」など
- ・マンチェスターとリバプール(8/23)… 国立フットボール博物館、ビートルズ博物館など
- ・プレミアリーグ観戦(8/24)… グディソンパーク(エバートン)とアンフィールドロード(リバプール)を訪ねた後、エバートンの新スタジアム「ヒル・ディッキンソン」へ。130年以上使用したグディソンパークを離れた新スタジアムでのプレミアリーグ初戦はエバートン vs ブライトン。新たな歴史がここから始まる！大興奮！
- ・ロンドン市内観光(8/25)… 1863年のFA創設の場である「フリーメイソンズ・タバーン(アームス)」を探検するが2か月前に閉店！ コベントガーデン、交通博物館、大英博物館へ。
- ・朝の便で帰国(8/26) ⇒ 8/27朝に羽田へ

イングランドへ行ってきました

一部活指導がなくなった元高校体育教師の夏休みー

I. 退職～英国旅行まで (7～8月を中心に)

1. 4月以降の生活

非常勤講師先で自己紹介用に用いるスライドで近況を報告する。

週1～2回の大学非常勤講師以外は、自分の時間を自由に使えるのがよい。高体連やサッカー協会等の公的組織の役職も最小限にとどめ、「やりたいことをやる」生活を心がけている。

自己紹介① あゆみ	自己紹介② いま
<ul style="list-style-type: none"> ■小学生時代は、“スポ根”と“青春ドラマ” 1961(昭和36)年生まれ “熱血”スポーツ観、部活観がメディアを通して刷り込まれていた世代 ■中学時代は、“熱血”サッカー部 「練習中は水飲むな～」とにかく毎日練習あるのみ!」 小3～高3は大坂 ■高校時代は、“民主的”サッカー部 “勝つ”サッカーと“楽しむ”サッカー 「北摂リーグ」の経験 ■大学時代は、“伝統的”サッカー部 大学～大学院は筑波 「100人は“チーム”か?」「“クラブ”の意志は?」 修了後すぐ現職 ★スポーツ社会学との出会い 「スポーツとは/スポーツ集団とは?」「諸外国ではどうなっているのか?」 「これからのスポーツ環境はどうあるべきか?」 ■大学院時代は、“地域”における多様なサッカー活動 ★実践のフィールドへ ... 少年サッカー、高校サッカー、そして地域クラブ ★研究のフィールドへ ... 日本サッカーの「プロ化」の研究 ■2021年度で定年退職。再雇用(再任用)で3年勤務 ■38年間の高校教師生活 ... “定点観測”で社会と生徒の変化を見続けた 2024年度末で退職。人生のリスタート(人生100年時代)! 	<ul style="list-style-type: none"> ■いくつかの大学で非常勤講師(週1～2回) ※春学期(毎週水曜日) 明星大学教育学部で「保健体育科教育法」(2014～) 中央大学文学部で「スポーツ教育論」(2024～) ※秋学期(月・水) 多摩大学で「地域スポーツ論」と「ニュースポーツ(実技)」(2022～) 平成国際大学で「サッカー(実技)」(2025～) ■(公財)東京都サッカー協会(TFA)フットサル委員(1994～) ■日本部活動学会理事(2020～) ■日本ピエールドクーベルタン委員会(CJPC)副会長(2024～) ■日本ヤタガラス協会副会長(2019～) ■特定非営利活動法人サロン2002理事長(1997～ 法人化は2014) 「スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”を“志”に掲げるNPO ■社会人11年目の息子と9年目の娘はいずれも独立。孫は2人。 「やりたいことをやる」生活を心がけています!

2. 退職初年度(2025年度)の夏休み

大学は7月下旬から夏休みとなり、部活動のない今夏はすべてフリーである。

スライドの水色は、家族や友人との「お楽しみ」。薄茶色がNPO サロン 2002 やサッカー協会、講演など仕事関係の「お楽しみ」。いずれも「お楽しみ」であり、よい意味での“遊び”である。写真を見ながら振り返りたい。(本報告では写真略)。

1) 日本ヤタガラス協会総会・講演：中村覚之助関係(7/12～13)

東京高師蹴球部初代主将の中村覚之助は、コロナ禍の2021年に那智勝浦町の名誉町民となった。昨年度から少年サッカーの「中村覚之助杯」

もはじまり、地元での認知度を高め、日本サッカー殿堂入りへ向けて徐々に盛り上がりつつある。

退職初年度(2025年度)の夏休み	
<p><6月後半></p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/18(水)夜行バス⇒6/24大阪 (6/19万博、6/20部活カンファレンス、6/23神戸高塚高校・兵庫FA) ・6/28(土) 101回2組 クラス会 <p><7月></p> <ul style="list-style-type: none"> ・7/2・9・16(水)は中大・明星大 ・7/7～8は国際武道大 ・7/11夜行バス⇒那智勝浦～13 日本ヤタガラス協会総会・講演 ・7/18～21 富山～松本 (7/19サロンin富山) ・7/31SPORTEC(東京ビッグサイト) 	<p><8月></p> <ul style="list-style-type: none"> ・8/2桐蔭会館⇒YC&AC⇒掛川 8/3JFA全日本U-18フットサル(浜松) ・8/8～11 家族集合 ・8/9U-15フットサル(青梅) ・8/10U-18チャレンジU-18(立川泉) ・8/16～18清水 (8/17サロンin清水) ・8/19～27 英国旅行 ・8/28 大学院同期会 ・8/30 ブカツカフェ

私は、日本ヤタガラス協会副会長として毎年那智勝浦町に出向き、総会後の講演で覚之助の話を地元の方にさせていただくことが多い。今年も「日本サッカーのはじまりと中村覚之助」と題して話をすることができた。

中村覚之助研究に若手研究者も携わるようになり、那智勝浦町議会でも取り上げられている。中村覚之助の「メジャー化」と日本サッカー殿堂入りへ向けて、再び盛り上がってきたところである。

2) サロン in 富山 (7/18 ~ 22)

7/17 (金) に富山入りして現地の旧友と杯を酌み交わす。7/18 (土) の午前は高岡市内の中学生の地域クラブ「タカオカシティ FC」の活動を橋和徳氏と視察。午後は「サロン in 富山」で部活動改革の動向について密度の濃い議論をした。部活動の地域展開はホットな話題である。月例サロンでも数回にわたって取り上げている。

その翌日、せっかく富山まで来たのだからと、世界遺産の白川郷まで往復バス旅行。21日は立山・黒部に足を伸ばし、長野県側に出て浅間温泉泊。22日は松本市内を観光ののち帰京。「用事」の前後に自由時間があるのがよい。

3) 「南極」～「アフリカ」～掛川～浜松 (8/2 ~ 3)

8/2 (土) はまず、桐陰会館で元同僚の小松俊介氏による「南極授業」イベントに顔を出し、そのまま横浜カンントリー&アスレティッククラブ (YC&AC) へ行って岸卓巨氏の A-Goal との共催イベントを視察。セネガルで来年開かれるユースオリンピックで初採用となる「ベースボール 5」をやっているところを実際にみられたのはよかった。

夕方には新幹線で掛川へ移動し、掛川 JFC の伊藤薫氏と久しぶりに飲み語り、私はそのまま浜松へ。翌 8/3 (日) の JFA 全日本 U-18 フットサル選手権大会の 3 位決定戦と決勝戦を観戦。その後、浜松在住の高校時代のクラスメートと飲み食いして帰京。これまた充実!

4) U-15・18 フットサル運営 (青梅・立川 8/10 ~ 11)

8/8 (金) は名古屋から息子一家が帰省し、娘夫婦もオンラインと対面で「家族集合」。翌 8/9 のお出かけも充実。孫と過ごす時間が楽しくてたまらない。

8/10 (日) は U-15 全国大会予選で青梅へ、翌 8/11 (月祝) は U-18 フットサルの大会が立川であるので、8/10 は立川のカプセルホテル泊。この U-18 フットサル大会は、2001 年に始まる全国初の U-18 公式フットサル大会で、今年で 25 周年を迎える。

5) 「サロン in 清水」 (8/16 ~ 17)

「サロン in 清水」は 8/17 (日) 午後の開催だが、前日から清水入りした。初期のころからのサロン仲間である三田市整形外科の田中俊也氏と合流し、サッカーどころの清水をめぐる。清水東や清水商業 (現清水桜が丘) を訪ね、「サッカー神社」の小芝八幡宮へ。巨大サッカーボールが祀られ、「日本少年サッカー発祥の碑」が置かれている。2001 年夏に「出張サロン in 清水」を行ったナショナルトレセン「J ステップ」も懐かしい。そして日本平 (アイスタ) へ。エスパルス vs マリノス戦は 18 時 30 分キックオフ。小高い丘の上に建つスタジアムは熱気に包まれている。久々の J リーグ観戦は、8 月 24 日のプレミアリーグ観戦を控える私にとって貴重な時間であった。

嵐のような雨が降りつける時間帯もあったが、三田市整形外科院長のスポンサーシートには雨はかからない。試合は 1-3 のスコア通りの内容で、地元サポーターには「情けない」ゲームであった。駐車場からなかなか車が出せないの、しばらくスタンドで過ごしていると、田中さんの地元の友人が続々集まって来る。思い思いに今日のゲームのふがいなさを語っていくのが面白かった。

J リーグ初年度に増築したこの競技場は、交通アクセスの面などで無理がある。海沿いのエネオス跡地に新スタジアムの構想があるとのことで、今後が楽しみである。

「サロン in 清水」では清水の中学サッカーについて語り合った。サッカーどころ清水の人たちが、部活動の地域展開に“当事者”として向き合い、「どうすべきか」の方向性を自分たちで見出そうとしているのはすばらしいと思った。初対面や久しぶりの再会もあり、懇親会～2 次会まで盛り上がる。

その日のうちに帰京できた。意外と近い。

退職初年度 (2025 年度) の今夏について、英国旅行までを振り返ってみた。「部活動に出なくてよい」というだけで時間が生まれ、充実している。どこへ行っても仲間がいるのもありがたい。

II. ところで…高校教師の夏休み（中塚の場合）

では現職教員の頃はどのように過ごしていたのだろうか。せっかくなのでこの機会に振り返っておきたい。「記録魔」である私の手許には昔の手帳などの資料がある。

インターネットはなく、「働き方改革」の言葉もない時代に着任して38年間。社会は大きく変化した。もちろん私自身も、20代半ばの着任から孫ができる年代まで、長く務めた。特徴的な年代をみておきたい。

着任2年目（1988年度）の夏休み

まずは着任2年目（9月で27才）。紫は学校の宿泊行事。担任はまだないが、1年生のHR合宿である蓼科生活に、担任補佐として引率した。1989年度から3泊4日となった蓼科生活は、この頃は4泊5日である。希望者対象の「海浜生活」にも引率し、4泊5日を館山で過ごした。この行事も2年後には参加者減により中止となる。その最後のところを、生徒部の若手教師として担当していたのを思い出す。

黄色はサッカー部の活動。高萩大心苑での5泊6日の夏合宿と、8月末の高校選手権予選が夏の大きな行事である。本校では夏休みの部活動は14日以内（後に15日となる）と定められていたが、合宿と大会はカウントされないの、夏休みの多くを部活動に注いでいた印象がある。午前・午後の2部練も何日かあった。昼休みをどう過ごすかが、2部練を乗り切る重要ポイントである。工芸室脇の階段付近が学校の中で一番涼しい（まだ教室に冷房はない）ので、部員はそこで昼寝をする。これが重要。

部活動は自分自身のトレーニングでもあった。関東リーグに属する東京教員クラブのメンバーとして、リーグ戦、教員大会、国体予選に出場している。私の不在時は、以前からサッカー部顧問をされていた化学の伊藤良徳先生がみてくださっていたが、私も自分の試合が早く終われば学校に戻っていた。大会の会場校になることも多かった。

水色が「お楽しみ」である。合宿翌日に筑波へ出かけ、院生時代に外部コーチをしていた竹園高校サッカー部のOB会に参加し、さらに地域クラブ「バルバロス」の活度にも参加するなど、精力的に動いていたことがわかる。

息子2歳・娘0歳（1994年度）の夏休み

結婚し、子どもが生まれると生活は一変する、と言いたところだが、1994年度をみると、高校生の部活動とともに、薄茶色で示した諸活動が多く入っていることがわかる。「JFA 科研（日本サッカー協会科学研究委員会）」のサブグループである「社心グループ」は、いまのサロン2002の前身である。サロン2002の名称は1997年度から使っているが、このころから研究会活動を、お茶の水女子大の「杉山研」で行っていた。「スポーツいんろう」もほぼ毎月行われる研究会で、巣鴨の三菱養和会で、日本代表監督を退いたばかりの横山謙三氏のもとで開かれた。文化としての

着任2年目（1988年度）の夏休み

<7月>	<8月>
・7/13(水)まで授業(集会・HR)	・8/1,3,4,5,6,8,10,は練習・試合
・7/14,15は練習・試合	・8/9豊島園
・7/16～20 海浜生活引率	・8/11～13 教員大会(神奈川)
・7/23はサッカー研(東大駒場)	・8/15(月)～20(土)合宿(高萩)
・7/24東京教員1-1古河千葉 (関東リーグ、アウェイ)	・8/21竹園高校OB会⇒バルバロス
・7/25AM蓼科準備⇒保体研	・8/22～26選手権予選
・7/26～30 蓼科生活引率	・8/26～27東京教員国体予選(藤沢)
	・8/28～30は大泉周辺
	・8/31 教官研究会(終日)
	・9/1(木) 集会・清掃・HR

37

息子2歳・娘0歳（1994年度）の夏休み

<7月>	<8月>
・7/15(金)まで授業(集会・HR)	・8/1,3 練習・試合(8/2杉山研)
・7/16コーチ会議⇒JFA科研(渋谷)	・8/4～6 高知へ⇒8/6練習⇒花火
・7/17(日)小石川と定期戦	・8/7(日)◎とサンシャインシティ⇒バルバロス
・7/19,20練習・試合	・8/8～13合宿(高萩)／10は日立
・7/21～22 JCY調査(河口湖)	・8/15,17,19,20 練習・試合
・7/23 川崎YMCAで講習会	(16◎の大冒険・秋川溪谷)
・7/24(日) 終日試合	(18教員チーム／19スポーツいんろう)
・7/25,27,28 練習・試合	(20夜～21朝Jリーグダイジェスト)
・7/26「◎とお出かけ」	・8/22～26選手権予選(決勝敗戦)
・7/27「社心グループ」	・8/28トレン⇒～30鎌倉・伊豆
・7/29～30インターハイ調査(富山)	⇒8/30教員チーム
・7/31 小山台と定期戦	・8/31教官研究会(終日)⇒懇話会
	・9/1(木) 集会・清掃・HR

スポーツをさまざまな角度から取り上げる研究会で、私は何度も話題提供、問題提起させていただいた。

「JCY 調査」や「インターハイ調査」は、Jリーグ発足に伴うユース年代のサッカー環境の変化を追うために、社心グループでこのころ取り組んでいた調査研究である。

息子3歳・娘1歳(1995年度)の夏休み

1995年度の夏休みには「東京書籍」の記録もある。保健体育の教科書づくりに携わっていたもので、合宿もしている。編集委員会には成田十次郎先生もおられ、ご一緒させていただいた。

1993年にJリーグが始まるが、NHK(BS放送だったと思う)では「Jリーグダイジェスト」という番組で、試合結果だけでなく、サッカーの見方を伝えていた。その番組制作に、1994～95年ごろに関わっていたのを思い出す。90分の試合を3分にまとめ、「チョークボード」などを用いて解説者にサッカーの醍醐味を語ってもらう映像をつくる作業である。映像そのものはNHKの技術者が作成するが、私は土曜日夜の試合をNHKで観戦し、取り上げる場面をピックアップし、技術者と夜通し、あ

あでもないこうでもないと言いながら作っていた。朝までかかって作成し、終わったら近くのホテルで仮眠。日曜日には部活動や教員チームにそのまま出かけることもあった。確か3～4名で交代していたと思う。1994年FIFAワールドカップでは「ワールドカップダイジェスト」にもかかわった。

水色の「お楽しみ」は、幼い子どもの相手である。「®とお出かけ」は2歳の長男を連れてどこかへ行ったのだろう。生まれたばかりの娘と妻も一緒に来たはずである。8月末は伊豆・下田に家族旅行。これは大事にしていた記憶がある。

スライドには「ふつうのこと」は書かれていないが、もちろん教員としての「ふつうのこと」はやっていた。けど、おもしろそうなことには首を突っ込む、頼まれれば断らない、迷ったらやるという体質なので、ふつうの教員とは異なる活動が多かったかもしれない。付き合いも大事にするので飲み会も多い。心身ともにタフにできていたのと家族の理解(あきらめ)があったから、やってこられたのだろう。

息子3歳・娘1歳(1995年度)の夏休み

<7月>	<8月>
<ul style="list-style-type: none"> ・7/15(土)まで授業(集会・HR) PM練習試合⇒サッカー研(上智) ・7/16文京区中学トレセン⇒小石川 ⇒7/16～19大阪 ・7/21,22 練習・試合 ・7/23～24 JCY調査(河口湖) ・7/25,26,27 2部練 (25夜は東京書籍) ・7/28 森林公園⇒夜は科研委 ・7/29練習 ・7/30小山台定期戦⇒鳥取へ インターハイ調査(鳥取) ⇒8/1朝帰京 	<ul style="list-style-type: none"> ・8/2,3 2部練⇒8/2夜は東京書籍 ・8/5 練習 ⇒ 板橋花火大会 ・8/7(月)～12(土)合宿(高萩) ・8/14(月)筑駒で測定&試合 ⇒午後は高体連科研 ・8/16,17 練習・試合 (18はこども動物園・プール) ・8/19～23選手権予選 (8/19夜はJリーグダイジェスト) ・8/25～27 伊豆・下田 ・8/28～30 東京書籍合宿 ・8/31教官研究会(終日) ・9/1(木) 集会・清掃・HR

茗友サッカー 120年(2016年度)

右はだいぶ後になってからの夏休みで、53歳のころである。6回目の担任は127回生の担任長。このころ筑波大学蹴球部同窓会茗友サッカークラブの理事長として120周年の事業に取り組んでおり、全国高体連研究部活性化委員長として部活動問題のど真ん中にもいた。教員免許状更新講習で「オリンピック教育」の講義・演習を担当、オリンピック教育にも力を注いでいた。

二人の子どもは社会人となり、子育ては一段落。一方で親の介護がはじまり、水色で示す「大阪」は親の介護が中心である。

茗友サッカー120年(2016年度) 127回担任長

<7月>	<8月>
<ul style="list-style-type: none"> ・7/10(土)120周年記念パーティ ・7/15(金)まで授業(集会・HR) ・7/16(土)PMはJFALフェリー・カレッジ 夜はJFAでサロン2002月例会 ・7/17(日)練習試合～文化祭 ・7/18(月祝)DUO講習会～会議 ・7/20～23立科生活(1年担任) ・7/24終日ゲーム ・7/25高体連研究部活性化委 ・7/26サッカー⇒面談⇒サロン理事会 ・7/27明星大非常勤⇒夜行バス ・7/28, 29は大阪 ・7/30蹴球部合宿前日準備 ・7/31～8/5蹴球部合宿 	<ul style="list-style-type: none"> ・8/8, 9, 11, 12 サッカ一部 ・8/13～14都U-18フットサル運営 ・8/15 学校⇒渋谷(オリパラ関係) ・8/16 選手権1回戦0-3小山台 ・8/18 同 2回戦0-3雷中止 ・8/20 同 2回戦0-6足立学園 ・8/22 CORE⇒夜行バス(大阪) ・8/23, 24 体育学会(大体大) ・8/25 SGH校内推進委員会 ・8/26 教員免許状更新講習 ・8/27 学校説明会 ・8/29筑波大(茗友SC)⇒夜はサロン ・8/31(水)校内研究会⇒懇親会

東京都の高校選手権予選は、地区大会を勝ち上がって都大会という形ではなく、1回戦から全都で対戦する形となっていた。2回戦を2回行っているのは、8/18の試合が雷のため途中で中断、そのまま中止となり、1日あけた8/20に改めて0-0から試合を行ったものである。相手は同じ2地区の足立学園であった。このころが部活動指導に時間をかけていた最後のころになる。担任長として、自分の都合では調整できない打ち合わせが多くなった。働き方改革の時代でもある。若手教員や卒業生に、部活動の現場指導をお願いすることが多くなった。

2020年度からのコロナ禍、そして年々ひどくなっていく暑熱環境下において、青少年の部活動のすがたも様変わりした。私自身も再雇用の3年間は、以前ほどは部活動に関わらなくなって退職。

そして今年度の夏を迎えたのであった。

Ⅲ. 英国旅行 (8/19 ~ 27 帰国) 概要

3月末までロンドン駐在の娘に会いに行くということで、初の英国旅行となった。同行する妻はずいぶん昔に行ったことがあるらしいが私は初の英国である。

航空券は6月10日に「Trip.com」で確保した。東京～ロンドンの航空便には各種あるが、ブリティッシュ・エアウェイズ (BA) の直行便にした。今年5月に娘がロンドンへ行くときに使った便である。一人だったら安い便で行くのだが、二人旅はそうもいかない。2名往復で491,680円。高いが仕方がない。ちなみに娘宅に宿泊するのでホテル代はかからない。私は寝袋持参である。

以下が概要である (公開サロン会場で配布)。以下、日ごとにみていきたい。

◆ 8月19日 (火) <移動>

13:05 羽田空港発 ⇒ 3:02 (UK19:02) ロンドン・ヒースロー空港着 (14時間のフライト)

21:30 キングスクロス駅 ⇒ 0:30 就寝

◆ 8月20日 (水) <ロンドン市内めぐり>

午前: バッキンガム宮殿にて衛兵交代式 (11時ごろ)

午後: ウェストミンスター寺院～テムズ河リバークルーズ～シティ散策

◆ 8月21日 (木) <フットボールの聖地を訪ねて (or プーさんの森) >

午前: ラグビー校訪問

午後: 14:00 ~ 15:00 ウェンブリースタジアム周辺

17:00 ~ 18:30 ウィンザー&イートン中央駅周辺

◆ 8月22日 (金) <湖水地方へ>

8:30 ユーストン発 (グラスゴー行) ⇒ 11:40 ウィンダミア着 (湖水地方の拠点)

<「ピーターラビット」が生まれたエリアを堪能>

◆ 8月23日 (土) <マンチェスターとリバプール (ビートルズ中心で) >

6:42 ウィンダミア発 ⇒ 8:27 マンチェスター・ピカデリー駅 ※附属 OB (114回主将) と合流

午前: 国立フットボールミュージアム

13:24 マンチェスター・ピカデリー駅発 ⇒ 14:10 リバプール駅着・二人と合流

午後: リバプール市内散策&ビートルズ・ミュージアム ⇒ マシューズストリート

◆ 8月24日 (日) <リバプールでサッカー三昧>

午前: グディソンパーク (スタジアム) とアンフィールドロード (スタジアム) / リバプール大聖堂

午後: ヒル・ディキンソン・スタジアム 14:00 キックオフ: エバートン vs ブライトン

19:43 リバプール発 ⇒ 23:00 ごろユーストン駅着 (24分遅れ)

◆ 8月25日 (月祝) <サッカーの聖地探訪～大英博物館等>

午前: 「フリーメイソンズ・タバーン (アームス)」を探すが… / コベントガーデン、交通博物館

午後: 大英博物館

◆ 8月26日 (火) <移動>

UK10:00 ごろ離陸 (JPN18:00) ~ JPN6:40 羽田着 (約13時間)

第1日 8月19日(火) <移動>

13:05 羽田空港発 ⇒ 3:02 (UK19:02) ロンドン・ヒースロー空港着 (14時間のフライト)

21:30 キングスクロス駅 ⇒ 0:30 就寝



13時発の便で向こうに着くのは同じ日の夜。14時間を機内でどう過ごすかは重要ポイントである。

1回目の食事でワインをいただき、軽く眠りにつき、その後はずっと起きていることにした。おおむねその作戦はうまくいった。新書『映画で読み解くイギリスの名門校』を読み、映画『白雪姫(実写版)』を見て、あとは『地球の歩き方イギリス』などのガイドブックを読む。モチベーションは高まる。

飛行ルートは、座席前の画面でたびたび確認。ロシア上空を飛ぶことはできないので南回りかなと思っていたら全く逆。カムチャツカ半島の横を通ってベーリング海からアラスカへ。カナダ上空からグリーンランドを越え、アイスランド、フェロー諸島からスコットランド経由でイングランドへ。北回りというだけでわくわくする。

19時30分ごろヒースロー空港着。荷物をピックアップし、入国手続きをして外へ出るとちょうど20時ごろになり、娘と合流することができた。

元気そうでよかった。

地下鉄で娘宅へ向かう。大江戸線ぐらいの小さな車内。全体的に丸くできている車体からか、「TUBE」と呼ばれているようだ。車内はあまりきれいとは言えない。路線によるのだそうだが、窓ガラスは傷ついているし、車内の電灯はたびたび消える。「世界初の地下鉄」にしてはどうかと思ったのが最初の印象。

最寄駅のキングスクロスは、ハリーポッターに登場する「9と3/4ホーム」がある駅である。

しかし、思っていたよりしょぼい。その後、何度もこの脇を通るが、いつ通っても世界中の観光客でにぎわっている。このときが一番すいていたかもしれない。



娘宅に向かう途中のスーパーで缶ビールを購入。500ml × 4本が接着剤でくっついて販売されているのを買った。£7.75 ÷ 1,550円。1本あたり400円弱。ちと高めか。これを取り外すのがけっこう大変。強烈にくっついている。

シャワーを浴びてビールを飲んで、早々に寝た。
明日からが楽しみ。



第2日 8月20日(水) <ロンドン市内めぐり>

午前：バッキンガム宮殿にて衛兵交替式(11時ごろ)

午後：ウェストミンスター寺院～テムズ河リバークルーズ～シティ散策



キングスクロス駅は、隣のセントパンクラス駅とともに歴史的建造物風でとてもよい。ロンドン北部の遠距離旅行の拠点となる駅のような。[9と3/4ホーム]は朝から大賑わいである。隣にあるハリーポッターショップをひとつおりみてから地下鉄ビクトリアラインでGreen Park駅へ。公園をてくてく歩いた先にあるのがバッキンガム宮殿である。11時からの衛兵交代式はロンドン観光の定番。世界中から集まる観光客と、10時過ぎから場所取り勝負をして待った。

10時40分ごろから、衛兵が各地からやってくる。鼓笛隊の音色が雰囲気盛り上げてくれる。いつの間にか衛兵交代は始まっているようだ。どこで終わったのかもよくわからないが、鼓笛隊は観光客向けのサービスだろうか、いまふうの音楽を演奏して観客を盛り上げる。

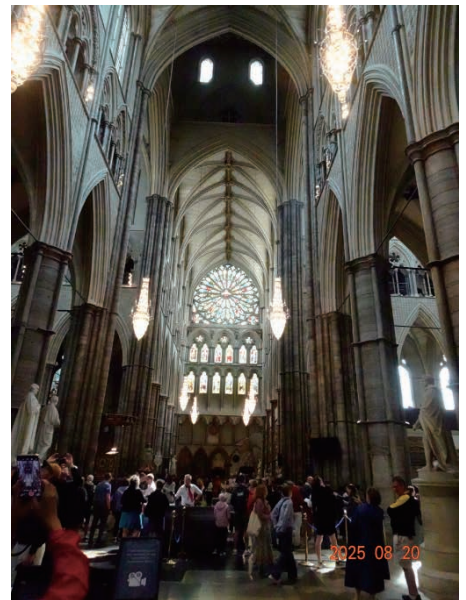


近くのパブに入って腹ごしらえをしようということになり、少し歩いたところにある The Kings Arms というパブに入った。まずはフィッシュアンドチップスとビール。なかなかよい。

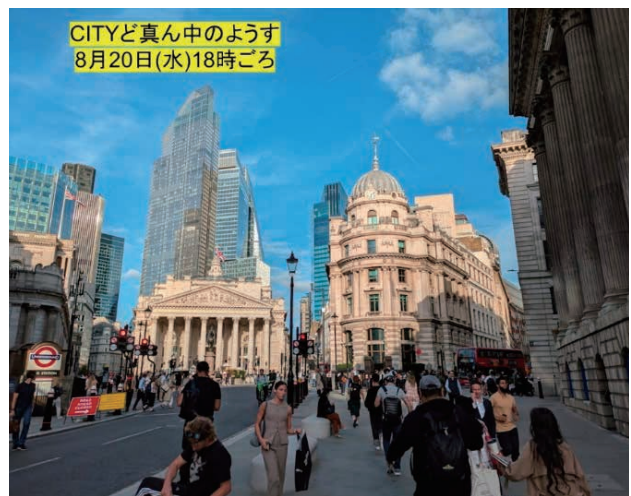


次もロンドン観光定番のウェストミンスター寺院へ。2階建てバスに乗って移動し14時前に到着。寺院の前の公園にたくさん銅像が並んでいる。歴代国王はよくわからないが、チャーチルはわかる。英国史に必ず出てくる英雄だけでなく、マンデラやガンジーの像もある。ロンドン市内のいたるところに銅像や記念碑がある。歴史をこうして伝えているのがよい。

国王の戴冠式が行われるウェストミンスター寺院は、歴代国王だけでなく、各分野の人々が埋葬されたり記念碑が置かれるところである。ダーウィン、ニュートン、シェークスピア、ナイチンゲール…。「無名戦士の墓」もあった。ここだけで1日過ごせる。入館料は日本円で6,000円。



ウェストミンスター寺院周辺は、ビッグベンや国会議事堂のあるロンドンの中心地。ここでテムズ河のリバーボートに乗る。タワーブリッジのほとりで下船し、ロンドン塔を横目で見ながら経済の中心地「シティ」へ。歴史的建造物の間にモダンな建物もあり、何とも言えない風情であった。



キングスクロスに戻り、娘宅付近のステーキ屋さんで夕食。ポップコーン&ステーキ&サラダを3人前、およびビール2本(小瓶)で£79.16 ≒ 15,830円。こんなものだろう。

第3日 8月21日(木) <フットボールの聖地探訪 (or プーさんの森) >

午前：ラグビー校訪問

午後：14：00～15：00 ウェンブリースタジアム周辺

17：00～18：30 ウィンザー&イートン中央駅周辺

この日は朝から「フットボールの聖地を訪ねる Part1」。サッカーとラグビーが生まれたパブリックスクール、イートン校とラグビー校を訪ねる旅である。妻と娘はまったく関心がなく「ポーさんの森」へ。こちらは気軽な一人旅である。

英国旅行中、地下鉄はカードをタッチするだけで済む（どれだけ引かれているのかわからず怖い）が、遠出する際には旧国鉄の列車を使う。そのための Britrail Pass を娘が用意してくれた。日本で言う「青春 18 切符」のようなものだ。4 日間の乗り放題切符は 28,040 円。

あちこち行ったので、たぶん元はとったと思う。

ラグビー校へ向かう電車は、キングスクロスの隣のユーストン駅から出る LNR (London Northwestern Railway) の電車である。

9 時 46 分ユーストン発で、40 分ぐらい乗っていると車窓は羊や馬の放牧風景になる。そして 10 時 40 分前にラグビー駅着。



ラグビーは静かな田舎町という印象。町の方向に歩き出すが、人の姿を見かけない。このまま歩いてたどり着くのか、ちょっと心配になってきたので、たまたま見かけたおじさんに聞いてみた。「日本から来た観光客です。ラグビー校に行きたいのですが道を教えてもらえますか」。すると親切なおじさんは、「そっちの方向に行く用があるから案内するよ」と言ってくれた。ありがたい。

ケニア生まれのおじさんは 14 歳のときに家族とともにラグビーへ移住。54 年間この地に住み、飛行機の部品をつくる工場で働いていた 68 才。いまは退職してのんびり暮らしているそうだ。私と同じである。名前を聞いたが忘れてしまった。

ラグビー校とは別の公立学校が途中にあった。そこもよい学校だそうだ。

そしてラグビー校へ。いまは夏休みで学生は実家に帰省中。しかし校庭に入ることはできる。

そこに広がるのは、ラグビーが始まったメインピッチである。ピッチ脇の壁には、あの有名なレリーフがあり、WILLIAM WEBB ELLIS の話が紹介されている。実物を見ることができて感動！「1823 年、サッカーの試合中に興

奮したエリス少年が〜という話は「作り話である」ということがのちの研究で明らかになってはいるが、ここではそんな野暮なことを言わなくていい。

ぐるりと1周するとエリス少年像もあった。写真を1枚撮っておじさんとは別れた。感謝！



ラグビー場の奥にもグラウンドがあるので、そちらから再びグラウンドへ侵入する。クリケットの試合をやっている。椅子持参で応援している老夫婦に聞いてみると、このあたりの州のU-13大会だそうだ。毎年この時期に3



日間やっているらしい。老夫婦のお孫さんが出ているそうで、「どちらのチームを応援しているのですか？」と訊ねると、お茶目な顔で「ENGLAND」と答えニヤッと笑う。会話に小さなジョークが込められる。いい意味で余裕がある。

校舎の方にも行ってみた。トーマス・ヒューズの像がある。『トム・ブラウンの学校生活』の著者である。名校長、トーマス・アーノルドの像もあるのだろうが、あまり長居はできない。駅の方へ戻り、駅前でドネルケバブを買い、12時30分過ぎの電車に乗り込んだ。

13時30分ごろロンドン・ユーストン駅へ。地下鉄に乗り替え、イートン校へ向かおうとしたが、紫色の電車からグレーの電車に乗り換えたあたりで間違えたようだ。わりと無計画に動いているので、こういうことは起きる。

けどそのグレーの地下鉄の行先をよくみると WEMBLEY PARK の駅名がある。予定を変更してウェンブリースタジアムへ行くことにした。イートン校にはそのあとで行けばよい。

14時10分にウェンブリーパーク駅に着いた。



1923年開場の旧スタジアムは取り壊され、その跡地に2007年に新スタジアムがオープンした。2012年ロンドン五輪のレガシーでもあり、戦後初開催の1948年五輪の会場もここである。そのときの英雄たち（人間機関車エミール・ザトペックなど）がスタジアムの壁面で紹介されている。

五輪でも使われたが、ここはフットボールの聖地である。FAカップ決勝は毎年ここで行われるしイングランド代表のホームスタジアムである。壁には、これまで行われてきた試合が記されたレリーフが飾られている（右写真）。

そして何とんでも彼らの誇りは、1966年に世界チャンピオンになったことであり、スタジアム正面にはボビー・ムーア主将像が誇らしげに立っている（右）。



ウェンブリーでは、ラグビーの決勝も行われている。ただしラグビーユニオンではなく、ラグビーリーグのチャレンジカップ決勝である。1896年に始まる大会の決勝がウェンブリーで行われていることは知らなかった（左）。

いろいろ見て回ったが、15時ごろにはウェンブリーパーク駅に戻ることができた。そこから紫のメトロポリタンラインに乗ってベイカーストリート駅経由、パディントン駅へ。ここは西の方へ向かう電車の起点である。

16時7分発のGWR (Great Western Railway)、Cholsey to Didcot Parkway 行きの電車に乗る。Slough 駅で乗り換え（ちょっとミスったが）、17時前に Windsor & Eton Central 駅に着いた。

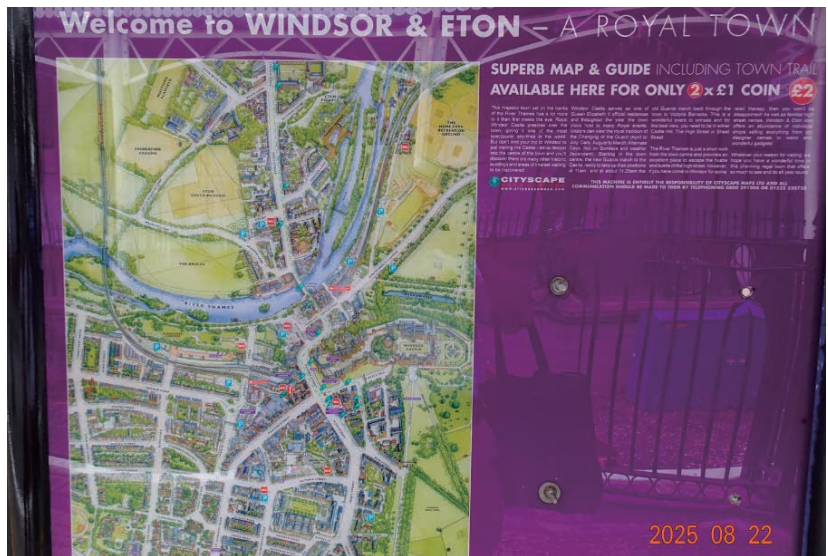
駅の地図で全体像を確認する。テムズ河の手前右がウィンザー城。観光客だらけである。私が行きたいのは川向こうのエリアで、お目当てのイートン校があるところ。

ラグビー校同様、夏休みで学生はおらず、川向こうは静かである。てくてく歩いていると、ETON COLLEGE HEALTH CENTERの看板が見え、そこから中に入ることにした(あとから思うと、ここで曲がってしまったので広いグラウンドに出られたが、イートン校の中心部には行けなかった)。

足元の小さな看板にはETON WAR MEMORIAL GARDENと書いてある。戦争で亡くなったイートン校の卒業生の名前だろう。石板には人名とともにメッセージが寄せられている。ロンドン市内でも多く見かけたが、このような形で、第2次大戦だけでなく第1次大戦についても伝え、つないでいるのが印象的であった。

そういえば日本の神社や寺院にも「戦没者慰霊碑」はある。日露戦争の慰霊碑もある。もっと注意してみようと思った。

さて、この一角の先には小さな門があり、あいている。そこを抜けると、広い天然芝のグラウンドが広がっていた。正規のサッカー場が6面は取れる広さである。ラインが引かれており、ゴールポストも埋め込み式で置かれている。イートン校のグラウンドにたどり着いたと感動しながら奥まで歩いていくと、けもの道を通り抜けたその先にさらに3~4面、別のところにもさらに…。とにかくサッカー場がたくさんある。そしてこれらは市民の散歩道にもなっているようで、芝のグラウンドの中に人が通った跡がある。じいさんと子どもと犬がボールで遊んでいるところにも遭遇した。



ETON COLLEGE HEALTH CENTREの表示に沿って中に入っていくと...





時間がなくなってきたのでイートン校を離れて駅の方へ戻ることにした。いくつも寄宿学校があるのを確認したが、前記のとおりイートン校のメインの校舎にはたどり着けなかった。だから「ウォールゲーム」が行われた壁添いのグラウンドもみていない。次の機会に取っておこう。



ちなみに最寄駅は Windsor & Eton Central である。エリザベス 2 世が愛し、2022 年 9 月に埋葬されたウィンザー城がある。せっかくだから少しだけ立ち寄った。世界中の観光客でにぎわっている。

18 時 25 分発の電車はなぜか 18 時 40 分発となり、ほかにも遅れがあり、キングスクロス駅に着いたのは 20 時ごろ。プーさんの森へ出かけていた妻と娘はすでに帰宅しており、宅配ピザで夕食にした。

充実の一日であった。女性陣も満足げであった。

第 4 日 8 月 22 日 (金) <湖水地方へ>

8 : 30 ユーストン発 (グラスゴー行) ⇒ 11 : 40 ウィンダミア着 (湖水地方の拠点)
<「ピーターラビット」が生まれたエリアを堪能>

朝からロンドンを離れ、2 泊 3 日のお出かけである。スコットランドに近い湖水地方は自然が豊かな観光地で、妻と娘が行きたがっていた。「ピーターラビット」が生まれた場所らしい。私が行きたいのはマンチェスターとリバプールなので、このあたりを 2 泊 3 日にまとめることにした。

この週末は、月曜日が「バンクスホリデー」で祝日なので3連休となる。9月から新学期を迎える英国では、夏の終わりを楽しむ開放的な週末である。

朝早く起きて8時30分ユーストン駅発、WCS (West Coast Service) のグラスゴー行きに乗る。車窓は少しずつ田舎風景に。途中からはのんびり過ごす羊が目につくようになる(右写真の白い点が羊)。

11時20分、オクセンホルム駅で乗り換え湖水地方に向かう。アイスクリームの車内サービスがありがたい。

11時40分、ウィングミア駅着。観光客が多い。



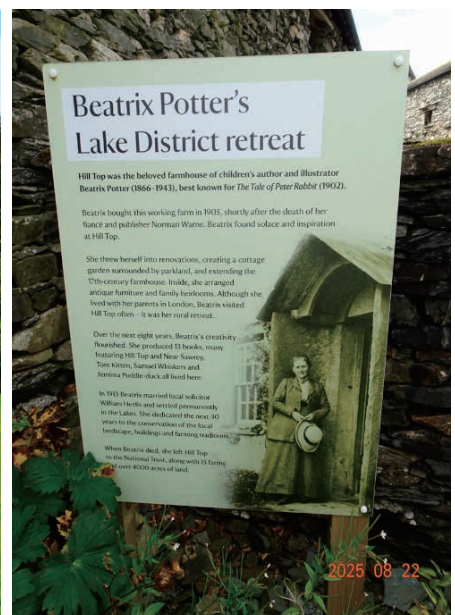
まずは駅裏にある小高い丘「オレストヘッド」を目指す。30分の散歩で頂上に立つ。標高300m ぐらいしかないらしいが、周りは絶景。しばらくそこでくつろぐ。



次は湖の方へ。駅前からバスが出るので、その前にランチボックスを買っていたら、定刻前にバスは出たようだ。仕方がないのでタクシーで棧橋のあるボウネスへ。この方が割安だった。

13時50分発のボートは15分程度ではあるが、天気もよく快適。

湖の反対側に到着し、バス移動。ヒルトップへ向かう。ピーターラビットの作者、ベアトリクス・ポッターがこよなく愛した農場である。



日本からの観光客が大勢いたのはびっくりした。少人数の女性が多いが、高齢者の団体旅行も。ピーターラビットの生まれ故郷でラビットを発見！



ポウネスから約 40 分歩いてウィンダミアまで。感じのいいホテルである (左上)。



夕食のお店を探していたら、イングランド、スコットランド、ウェールズ、アイルランドの旗を掲げるパブを見つけた (右上)。ええなあと思ったが満席。地中海料理のお店に入ることにした (左下)。

第5日 8月23日(土) <マンチェスターとリバプール(ビートルズ)>

6:42 ウィンダミア発⇒8:27 マンチェスター・ピカデリー駅※附属 OB (114 回主将) と合流

午前：国立フットボールミュージアム

13:24 マンチェスター・ピカデリー駅発⇒14:10 リバプール駅着・二人と合流

午後：リバプール市内散策&ビートルズ・ミュージアム⇒マッシューストリート

湖水地方 2 日目だが、私は評判のモーニングをホテルでとることなく駅へ向かい、6 時 42 分発でマンチェスターへ。卒業生と合流し、フットボール博物館をみてリバプールへ。

筑波大学附属高校 114 回蹴球部主将のタケ、こと大竹口智也氏はいま、リバプール FC でグッズ関係の仕事を担当する職員である。大学卒業後は JAL に就職。しかしスポーツの仕事がしたいとアンダーアーマーに転職。そこまでは知っていたが、サッカーの仕事に関わりたい思いは強く、3 年前に退職してリバプール大学に通いスポーツマネジメントを学ぶ。MBA を取得し、リバプール市内のビッグクラブに勤めるようになって 2 年目である。今回の英国旅行は、娘に会いに行くのがそもそのきっかけだが、サッカーの旅ももちろん重要。プレミアリーグ観戦は必須である。事前にタケと何度も連絡を取り、8 月 24 日の第 2 節のチケット入手から現地での 2 日間に至るまで、濃い時間をともに過ごすことができた。



マンチェスターの国立フットボール博物館にはどうしても行っておきたい (写真後方)。10 時の開館から 2 時間半ほど過ごしたが、1 日いても飽きない、毎日行っても楽しいところである。フットボールの歴史、英国でのさまざまなトピック、FIFA ワールドカップのあゆみ、女性のフットボール…。体験コーナーもある。

本報告では展示内容を紹介することはできないが、歴史を大事にする英国ならではの博物館である。

タケは何度か来ているようだったが、私のうんちくつきの博物館めぐりは、タケにとっても新鮮だったようだ。「高校の授業の続きのようです」とおもしろがってくれていた。何といても私自身が楽しかった。

ウェンブリースタジアムでも感じたが、イングランド人の最大の誇りは 1966 年の FIFA ワールドカップ優勝だろう。しかし延長に突入したこの試合、バーに当たって真下に落ちたボールがゴールインと認められイングランドがリードするといういわくつきである。追加点を挙げて 4-2 で西ドイツを破って優勝するが、ドイツ人はい



までもこのゴールを認めていない。博物館では、バーチャルで解説するグリー・リネカーが、そのゴールを決めたジェフ・ハーストにインタビューするブースがある。「あれは本当に入っていたのでしょうか」と聞きリネカーに、「当たり前だ。1ヤードも中に入っていたよ」と答えるバーチャルのハースト。こんな展示がいっぱいで、楽しめる。

日本サッカーミュージアムは、いまはない。再開の見込みについては、わからない。

自分たちのルーツやあゆみを語り継ぐメディアとしての銅像や石碑は重要で、博物館は必須である。フットボールミュージアムが「国立博物館」として存在する英国はさすがである。というよりも、ミュージアムを持たない、持てない日本が残念でならない。何とかしなくては…

マンチェスター～リバプールは40分ほどで着く。1830年開業の、世界初の実用的な鉄道だとされている。マンチェスターは3つ大きな駅があるが、リバプールには一つしかないのだからわかりやすい(他にもあるようだが)。湖水地方から戻ってきた妻・娘とも合流し、ここから4人でリバプールの旅である。

ホテルにチェックイン後、元世界遺産の港周辺に出かける。世界遺産が取り消される話はあまり聞いたことがないが、2004年に登録された「海商都市リバプール」は、再開発計画が進められたことを理由に2021年に世界遺産から登録抹消されたらしい。再開発計画の一つが、翌日訪れるエバートンの新スタジアム「ヒル・ディッキンソン」周辺なのだろう。埋め立てて造った土地の上でできた新スタジアムである。

リバプール初日は、あと半日しかないが、「ビートルズ」をテーマに案内してもらうことにした。まずはビートルズミュージアム。地下にある博物館は、思っていたよりもはるかに広くて充実している。これも1日コースでよい。今度来たときは、ストロベリーフィールズなども含め、もっとゆっくり見て回ろう。ちなみにタケは何度も来ているらしく、中には入らなかった。友人が来るたびに案内しているらしい。

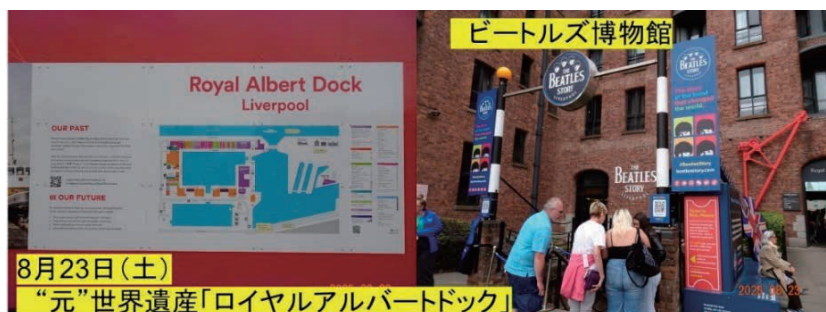
タケの案内で街中を歩く。リバプールFCのオフィスが入るビルの前には、20回目のリーグ優勝を誇る真っ赤なモニュメントがある。ちなみに翌日観戦するのはリバプール市内の青のクラブである。前年度チャンピオンのリバプールは第1節がホームで8月24日の第2節はアウェーでの試合。第2節のリバプール市内のゲームは、もう一つのプレミアリーグクラブ、エバートンのホームゲームとなる。タケにとってもエバートンのホームゲームは、



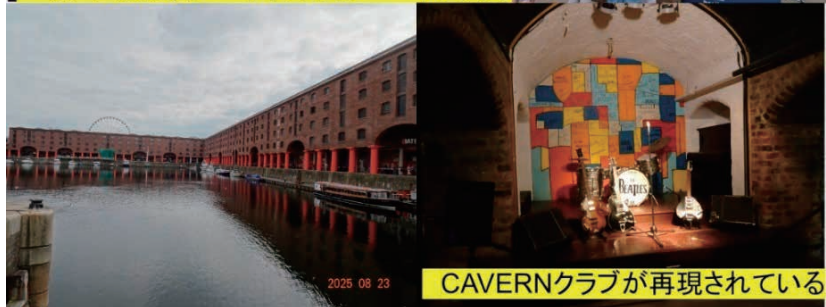
8月23日(土)マンチェスターからリバプールへ
13:24マンチェスター・ピカデリー発
14:10リバプール着(無事合流)



いったんホテルへ →港周辺を散策



8月23日(土)
“元”世界遺産「ロイヤルアルバートドック」

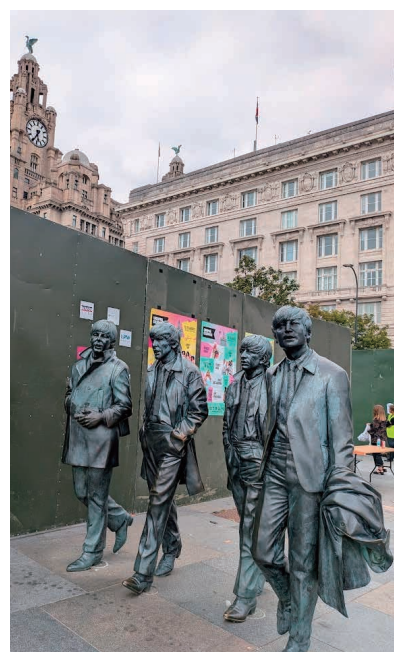


CAVERNクラブが再現されている

めったに観戦できないだろうし、何といても新スタジアムの公式戦初試合である。歴史的な試合である。

てくてく歩いていると、やたらにぎやかなエリアに出た。「マッシュウーストリート」である。タケ曰く、「一日中こんなににぎやかなストリートは、英国中でもここが一番でしょう」とのこと。たしかにすごい。そして、若者だけでなく、おっちゃんおばちゃんも盛り上がっている。3連休初日ではじけているのか、何だか知らないが、こういうムードの中でビートルズが育ってきたのだろうか。

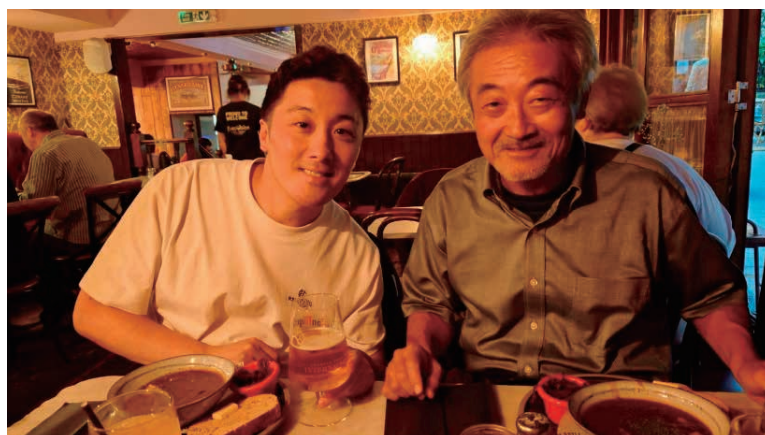
ちなみに港湾地区にビートルズ像がある。後方の建物 (The Three Graces の一つ) の上に乗っかるリバプールのシンボル「ライヴァーバード」と一緒に撮るのが定番らしいが、イベント会場の仕切り壁が設置されていて、こんな感じであった (下右)。



この日は夕方からプレミアリーグの試合が各地である。夕食前にパブで飲みながら試合観戦することになった。マンチェスターシティとトットナムのゲームをやっている。食い入るように見ている人もいるが、ここはリバプール。関係ない人ばかりである。比較的穏やかに観戦しながらビールを楽しんだ。

夕食は「リバプールならではの料理」をリクエストしたところ、SCOUCCE (スカウス) を紹介された。肉じゃがのような感じ。気に入った。リバプール人の英語は独特で、「リバプール弁を話す人はスカウスと呼ばれる」ということを教わった。

ホテルに戻りタケともう少し飲んだ。



第6日 8月24日(日) <リバプールでサッカー三昧>

午前：グディソンパーク (スタジアム) とアンフィールドロード (スタジアム) ノリバプール大聖堂

午後：ヒル・ディキンソン・スタジアム 14：00 キックオフ：エバートン vs ブライトン

19：43 リバプール発 ⇒ 23：00 ごろユーストン駅着 (24分遅れ)

いよいよ「サッカー三昧」の一日である。プレミアリーグの試合は14時キックオフなので、午前中に動ける。タケがスマホでウーバータクシーを手際よく呼んでくれて、移動は楽だった。

まずは今日のホームチームのエバートンが133年間使っていたグディソンパークへ。

1878年創立のエバートンFCは、もともとアンフィールドロードをホームとして使っていたが、1892年に賃料が値上げされ、それを機にグディソンパークを自前で作ったという。そこから2024～25シーズン終了まで133年間使い続けたスタジアムである。新スタジアムができてグディソンパークはどうなるのが心配だったが、タケ曰く「女子チームが使う」とのこと。エバートンの女子チームはウィメンズ・スーパーリーグ(トップリーグ)に属し、日本代表が4名加入した強豪である。イングランドでは女子サッカーも盛り上がっている。

スタジアム周辺は静かな住宅街という印象だが、あたり一帯が「エバートン」という地名らしい。スタジアム周辺を歩くと銅像が立っている。



左はアラン・ボール、コリン・ハーベイ、ハワード・ケンドールの像。このトリオは「ホーリー・トリニティ」(The Holy Trinity)と名付けられ、1969～70シーズンには主力選手として1部リーグで優勝した。アラン・ボールは1966年のワールドカップ優勝メンバーでもある。

スタジアム正面には、戦前の名選手ディキシー・ディーン像があり、DADとしていまも右写真のように華やかに祝福されている。1925年にエバートンに加入というから、オフサイドルールが変更になったところである。戦前の黄金時代の中心選手は人柄もよかったのだろう。このような選手たちは、その活躍と獲得した栄光だけでなく、人柄とともにクラブの歴史を形作るのだから。



グディソンパークから道路を挟んで公園に入る。スタンレーパークである。

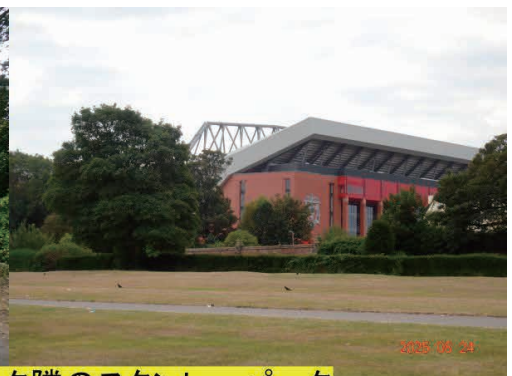
だだっ広い公園で、地元の人たちが散歩している。カラスもいた。足は3本はない。

グディソンパークが遠景に見えるところで、反対側に別のスタジアムが見える。リバプールの本拠地アンフィールドロードである。こんな近くにあるとは知らなかった。



8月24日(日)

グディソンパーク隣のスタンレーパーク
遠方にアンフィールドロードが見える！



スタジアムツアーはやっていないが、周りを巡るだけでも十分楽しめる。ここでもかつての選手や監督、できごとを語り継ぐための仕掛けがいたるところにある。ビル・シャンクリー（監督）、ケニーダルグリッシュ、スティーブンジェラードの名が刻まれたベンチには、彼らが活躍した試合のことが刻まれている。ほかにもたくさんあった。

語り継ぐべき記憶はサッカーの試合だけではない。1989年の「ヒルズボロの悲劇」はシェフィールドで起きたことだが、ゴール裏の立見席が崩壊し、リバプールと

ノッティンガム・フォレストのサポーターが96人亡くなった大惨事である。そのころスタジアムの安全性の問題はフーリガン問題とともに社会問題となっていた。私も大学院時代にスポーツ社会学研究室でこの類の論文をよく目にしたものである。英国社会がこの問題に向き合い、スタジアム環境の改善が図られ、いまでは女性や子ども、高齢者も安心して観戦できるようになった。だからこそこうした悲劇は忘れてはならない（下左写真）。

別のところにも多くの花束が飾られていた。昨シーズン優勝の立役者でもあるディオゴ・ジョタが今年7月3日、帰省先のポルトガルで弟とともに交通事故で亡くなったのである。この悲報は全世界を駆け巡ったが、スタジアムの一角にはこのような場が設けられていた（下右写真）。

ちなみに胸像はジョン・ホールディング。リバプール創設のきっかけとなった人物である。「1891年、アンフィールドのオーナー、ジョン・ホールディングは、当時アンフィールドを本拠地として使用していたエヴァートンに対して施設使用料の値上げを要求したが、エヴァートンはこれを拒否しグディソン・パークへの移転を決定。ホールディングはアンフィールドに新たなサッカークラブを設立（略称 :Everton Athletic）。1892年3月15日に「リヴァプールFC」とした」（Wikipedia）。



8月24日(日)
アンフィールドロード
「記念碑」がさまざまな形で残る...



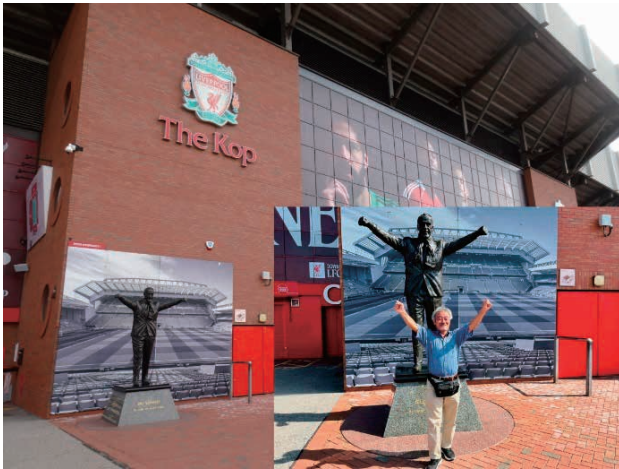
ヒルズボロの悲劇(1989年4月15日)
ヒルズボロスタジアム(シェフィールド)でのFAカップ準決勝、リバプールvsノッティンガムフォレストで「テラス(ゴール裏の立見席)」が崩壊。死者96人、重軽傷者766人を出す大惨事



ディオゴ・ジョタと弟の交通事故死(2025年7月3日)

リバプールオフィシャルショップもリニューアルされたいらしい。今シーズンからユニフォームはナイキからアディダスに代わり、大きな売り上げが期待されている。

有名なゴール裏席「コップ」の裏で、ビル・シャンクリーのポーズに合わせて写真を撮った。1月から「六十肩」に悩まされていたが、これぐらい腕は上がるようになった。



スタジアムを後にして、リバプール大聖堂へ。リバプール観光必須の聖堂である。メチャクチャ広い。時間があれば塔のてっぺんに上ると市内全域が見えてよいらしいが、長居はできない。タクシーで市内に戻り、バスでいよいよ試合会場へ。

2階建てバスは青色である。リバプールのホームゲームのときは赤色なのだろうか。

市の中心部から歩いている人が大勢いる。我々もバスの終点から歩いてスタジアムへ。わくわく感が高まる。

歩きながら観察すると、おじさんが多いのに気づく。それも、スキンヘッドで、おなかが出ていて、タトゥーをどこかに入れている、ちょっとこわもてのおじさんたちである。娘がそう表現していたが、確かにそうである。けどおそらく、ムチャクチャ陽気で楽しいおじさんたちなのだろう。見た目だけで「フリーガン」呼ばわりはしたくないし、されたくもない。ちょうどタケと私の左後方にいる人のような感じである。若者もいるが、圧倒的な存在感があるエバートンのおじさんたち…。



スタジアムに入る前の広場はライブ演奏で盛り上がっている。大音響を聞きながら、スタジアムに入っていく。そう言えばBBCのニュースでこのスタジアムの特集をやっていた。海を埋め立て新たに造成した土地に作ったスタジアム。スマホ決済で全て済ませるシステムが導入されているようだ。世界遺産ではなくなったが、リバプールは新たな時代に向かっている。



スタジアムに入る前の広場はライブ演奏で盛り上がっている。大音響を聞きながら、スタジアムに入っていく。そう言えばBBCのニュースでこのスタジアムの特集をやっていた。海を埋め立て新たに造成した土地に作ったスタジアム。スマホ決済で全て済ませるシステムが導入されているようだ。世界遺産ではなくなったが、リバプールは新たな時代に向かっている。



セキュリティチェックを通り、スマホ画面をかざして中へ入る。最後はおきまりの「ターンスタイル」。一人ずつ入る回転扉である。

さっそく売店でビールを買おうとするが、やり方がわからない。BBC でやっていたのだが…。タケがいろいろ聞いてくれた。我々のチケットは£10のバウチャー付き。ビールやつまみを買ってスマホのチケットでピッとすれば自動で引き落としてくれるという。ホンマかいな。

スタンド内でのアルコールはNGなので、スタンド後方のスペースで飲み食いしてから中に入ろう。と言っているうちに試合開始15分前になった。アップは見られなかった(スタンド裏のモニターでは見ていた)が、いよいよ229番のゲートから中に入る…

そこはすばらしい空間が、大音響とともに広がっていた…



全員が振っているエバートンのフラッグは、各座席に備え付けのメモリアルグッズである。およそ 52,000 人のほとんどがエバートンのサポーター。134 年目にして新スタジアムに移った公式戦初戦である。歴史がここから始まる。ブライトンのサポーターが、ちょうど我々の真下のコーナー付近にいるのはわかる。三苦選手もいる。がんばってほしいがエバートンを応援している自分がいる。

選手入場、両チーム選手紹介。ブライトン側の紹介はさっと済んだ。エバートンは一人ずつ画面に大映しで紹介される。まずはイングランド代表の GK、ジョーダン・ピックフォード。大歓声に包まれる。各選手とも盛り上がるが、ジャック・グリーンリッシュは特大の声援であった。マンチェスターシティから 8 月中旬にレンタル移籍が決まったばかりのイングランド代表である。



注) 公開サロンでは映像を用いて紹介したが、このあたりでオンラインの方々の画面が止まり、音声のみになってしまったようだ。申し訳ない。



試合は 2-0 でエバートンが勝利。歴史的な試合はお祭りムードで喜びに包まれた。

スタジアムから街なかへ、みな歩いて戻る。戻りながらこのゆたかな一日の喜びを仲間とともに楽しんでいる。

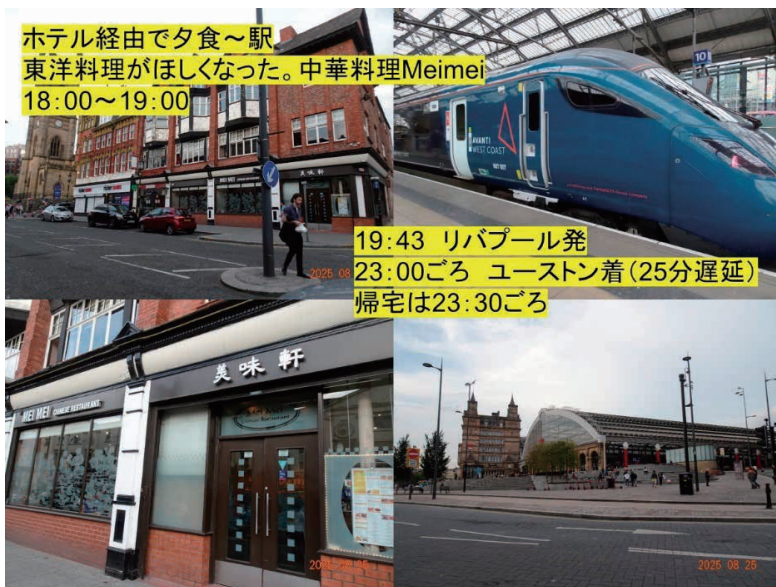
道の途中にパブが何軒もあり、そこで仲間と喜びを分かち合う。毎週末、彼らはこのように過ごしている。2週に一度はホームゲーム。スタジアムはヒル・ディッキンソン。歴史が始まる。

いったんホテルに戻り、荷物を持ってリバプールでラストの夕食。

何となくご飯が食べなくなってきたので中華料理「美味 MEIMEI」で飲み食いした。タケとともに過ごした充実の2日間もおしまい。タケには心から感謝である。

19時43分リバプール発。ユーストン駅に着いたのは23時ごろだった。心地よい疲労感。

ちなみにプレミアリーグのチケットは、一人あたり£169 ≒ 33,800円。試合プログラムと£10のバウチャー付きチケットであるが、いろいろあってプログラムはまだ手許にない。年内には届くだろう。



第7日 8月25日(月祝) <サッカーの聖地探訪～大英博物館等>

午前：「フリーメイソンズ・タバーン(アームス)」を探すが…/コベントガーデン、交通博物館

午後：大英博物館

自由に動けるのはこの日がラスト。大英博物館に行くこと、お土産を買うこと、荷造りをするのは MUST だが、私にはもう一つすべきことがある。「フリーメイソンズ・タバーン」訪問である。

1863年10～12月、さまざまなフットボールのルールを統一しようとロンドンのパブで会議が6回開かれた。

ランニングイン(ボールを持って走る)とハッキング(相手のすねを蹴ること)を認めるかどうか論点である。最終的にこれらは禁止され、FA(The Football Association)が創設され、今日のサッカーが近代スポーツとして成立する。ラグビー派の人たちはFAには加わず、自分たちでRFU(Rugby Footbaoo Union)を1871年に組織する。大きな分かれ目となった会議が開かれたのが「フリーメイソンズ・タバーン」である。

ネットで検索すると、2017年の時点でこのお店は「フリーメイソンズアームス」という名前になっている。それ



でも店内には「サッカー発祥の地」であることがわかる展示があったらしい。

<参考：西方見聞録 <https://ameblo.jp/levagabond/entry-12289948221.html> 2017年7月6日)>

今回の旅でどうしても行っておきたかったのがここである。情報は少ないがコベントガーデン付近にありそうだ。コベントガーデンには妻と娘も行こうとしていたのでちょうどよい。駅まで一緒に、そこからは一人で搜索した。

日曜日の早朝だったが、店支度をしているレストラン/パブのおじさんに尋ねてみた。すると「知ってるよ。けど2か月前に閉店したんだ。いまは別の店になっている」という。「ええっ?!」。おじさんに店の前まで連れて行ってもらったところ、確かに外観は「フリーメイソンズアームス」であるが、店名は違うし、中を覗き込んでも「サッカー発祥の地」に関する展示は見当たらない(店は閉まっていた)。隣のコーヒー店(CAFFÉ NEROというチェーン店)で「隣にあったお店のことで聞きたいことがある」と尋ねても、若い店員には何のことかわからなかった。



とにかく「フリーメイソンズアームス」は、ない。ショック…

気を取り直してコベントガーデンへ。そこで妻と娘と合流。近くの交通博物館へ入る。とくに期待しないまま入ったが、これがなかなか充実。とくに地下鉄のあゆみについてはおもしろかった。



昼食をファストフードのケバブ屋で食べ、大英博物館へ。このあたりは全部歩いて回れる。

大英博物館は予想通りすごい規模の展示で、半日で回れるわけがない。「7つの見どころ」と書かれていたところは回ってみたが、人も多く、けっこう疲れた。



大英博物館近くのお土産屋さんでいろいろ買って、ちょっと早いけど夕食。締めはやはりフィッシュアンドチップスである。食べ物についてはまったく苦にならなかった。何でもおいしいし、何でもある。ちょっと高いけど…。とにかくこの3連休は天気が良く、かと言って暑すぎることもなく、最高の週末であった。こちらはすでに曜日感覚はまったくないが…。

何度も利用したキングスクロス駅とセントパンクラス駅が美しい。



娘宅に戻り、荷造りしながらテレビをみていると、スコットランド・エジンバラ城の夏のイベント「ミリタリータトゥー」をやっていた。スコットランドも行ってみたい。ウェールズも、北アイルランドも、その南のアイルランド共和国も…。

第8日 8月26日(火) <移動>

UK10:00 ごろ離陸 (JPN18:00) ~ JPN6:40 羽田着 (約13時間)

5時30分起床、6時ごろには出発して駅へ。この日から人々は連休明けで仕事開始である。

いつも感じていたが、ごみの捨て方、集め方がわからない。街なかの共同ゴミ箱に燃えるものと燃えないもの、ビン・カンを分けて出すようだが、ごみ収集車はすべて一緒に集めている。どうということだろう(右上は8/25コベントガーデン周辺。他は8/26早朝)。

それと、横断歩道の渡り方がよい。日本だと信号に忠実に従うのみだ

が、信号しか見ていない。こちらの人は信号が赤でも、何も来なければ渡る。周りをよく見ている。信号しか見ずに、青というシグナルに反応しているだけの日本人は、信号無視して走ってくるものに気づくのだろうか。同調圧力の強さもあるが、大事なことは車にはなられないことであり、そのために周りをみることであり、そのための判断材料として信号をみることである。周りをみることもっとも重要。これはサッカーで学ぶことですね…などと考えていたら7時過ぎにヒースロー空港に着いた。8時30分ごろには娘としばしのお別れ。娘の仕事も再開である。がんばれよ。

8時50分ごろには搭乗口へ。9時には座席に着いたが、離陸は10時ごろになった。

帰路は北まわりでなく、ユーラシア大陸のど真ん中を横断するルートであった。ドイツ、ハンガリー、ルーマニアの上空を飛んで黒海へ。そこから中央アジア経由で広大な中国上空を飛ぶ。途中から揺れ出して、2度目の食事はなくなるかもと思ったが、何とかいただくことができた。

日本時間の朝7時前に着陸。UK10時(JPN18時)に離陸してから13時間のフライトである。

羽田空港から京急に乗ったのは8時ごろ。乗っている人が皆同じような色で似たような顔をしていると改めて思った。ロンドンの地下鉄にはいろんな人が乗っていた。

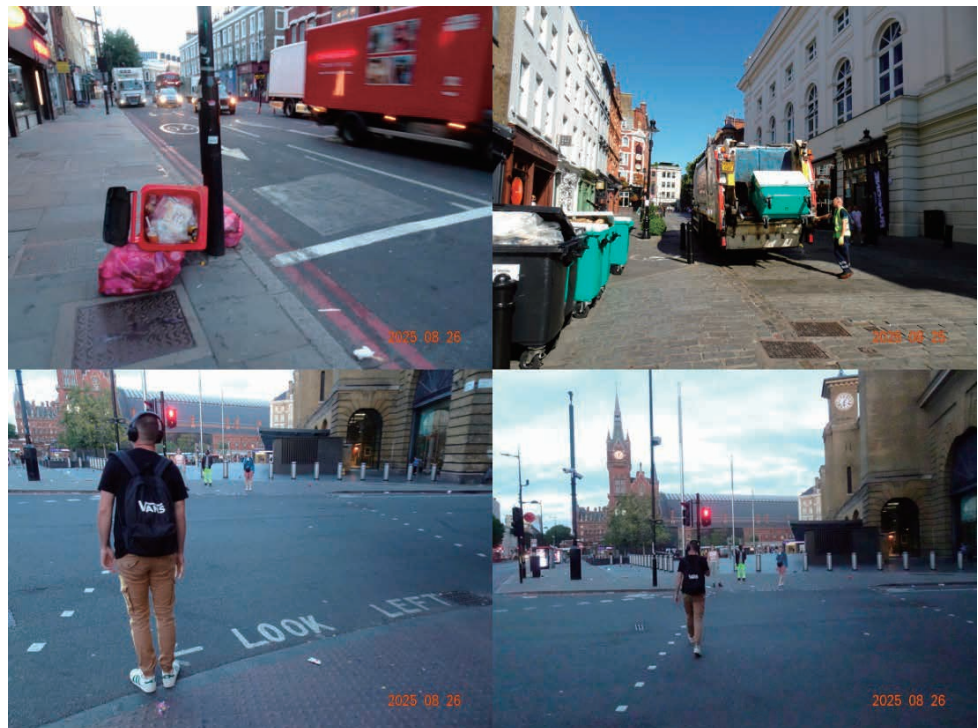
京急から都営三田線に乗り換え、自宅最寄駅へ。メチャクチャ暑い。どうかしている…。

わずか1週間の英国旅行であったが、久々の海外、初の英国は、刺激に満ちたところであり、とてもゆたかな1週間であった。

退職して得た時間をフルに活用して、またどこかへ出かけ、いろんな人や文化に触れ合いたい。

そして感じたこと、考えたことを、いろんな人にお伝えしたいと思った。

来年はギリシアに行く予定がある。FIFAワールドカップもある。楽しみである。



IV. 参加者からのコメント

◆ 丸山実花 (お茶の水女子大学附属高校) < 9月28日 >

同じ保健体育科の教員として、休暇をどのように過ごされているのかに大変興味がありました。

夏休み中も精力的に活動されていることに驚きましたが、いずれもご自身の「好き」から生まれているものであり、だからこそ夏休みならではの充実した体験につながっているのだと感じました。

私自身も、この夏休みに初めて海外旅行を経験し、「本物」に触れることの大切さを実感するとともに、年齢を重ねることで柔軟性が失われつつあることも痛感しました。

その後の夜の会も含め、いろいろな方にお会いできたことも楽しかったです。

また引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

◆ 細田卓次郎 (筑波大学附属駒場中学高校水泳部監督) < 10月1日 ⇒ 10月6日一部修正 >

通算で347回の開催ということで、伝統あるサロンに参加させていただき、有意義な時間を過ごすことができましたことを、大変感謝申し上げます。

私は今年から筑駒の水泳部の監督を務めさせていただいておりますが、世の中の先生方がご自身の多くの時間を教育に傾けていることを肌で感じております。

また、中塚先生の着任2年目の夏休みのスケジュールを拝見し、自分の時間がまったくないことに驚きました。しかし、中塚先生が「これは苦痛ではなく、自分の練習にもなった」と前向きにお話しされていたのを聞き、このポジティブな発想こそが多くの方々から慕われている理由の一つだと感じました。

さらに、「夏休みでイングランドへ行ってきた」と題してお話しされていた際、観光をされつつも観察・分析を行い、それを心から楽しんでいらっしゃる姿を拝見し、筑波大学体育専門学群らしさとはまさにこのようなものだ改めて感じました。

私は昨日お伝えいたしましたプロジェクトの関係で学校では授業を持っておりませんが、部活動を通じて生徒たちを育てる傍ら、筑波大学にスポーツホテルを創設し、さまざまな事業を展開することで、体育やスポーツの発展に貢献したいと考えております。

今後、昨日の懇親会でも少し話題に上がりましたが、限られた家族の時間の中でどのようにお子さまを育ててこられたのか、また「教育とは何か」という根本的な部分についても、より深くお話を伺うことができれば幸いです。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

◆ 奥山純一 (クーディップ株式会社) < 10月8日 >

私が約10年前に辿ったイングランド旅行と同じようなルートで懐かしく、建物やインフラは変化がない一方でサービスには変化があり、少しずつ社会は変化しているものだなと思いました。

また、発表にあったサッカーミュージアムは私も訪れましたが、中塚さんだけでなく、サッカーライト層の私も1日中いられる施設であったことを補足します。

◆ 齊藤芳 (桜丘中学・高校) < 9月22日 : 公開サロン案内への返信メール。当日は不参加 >

大変ご無沙汰しております、またメールありがとうございます。

(中略) 中塚先生のイングランド滞在概要読ませて頂きました。自分は社会人サッカーで知り合った先輩がロンドンで働いている(現在も)関係で、初めて行ったのが2007年でそこからパブも含めはまってしまい、1日、2日の滞在も含め9度ほど行っています。2007年当時、先輩の会社がチェルシーの年間シートを2席持っていました

ので連れて行っていただいたり、今では日本でもあるのかもしれませんが、年間シートを持っている人が行けない日に年間シートを貸し出せる制度？でエミレーツスタジアムにも行きました。先輩もネット上のやり取りのみで、当日ある駅で待ち合わせて、初めて会う人（ブルガリア人でした）にカードを借りて行ったりしました。今はもうその制度はないかもしれませんが。ロンドンの他プレミアのチーム、下部リーグ、ウェンブリーでの代表戦、リバプールなどプレミアリーグに行きましたが、ピッチとの距離がものすごく近く（ウェンブリーは別ですが）独特の雰囲気です。フリーメイソンズアームも何度も行きました。閉店しているとは知らず、サッカーファンには大変残念です。

エバートンの新スタジアムに行かれたのはすごいですね。建築時から youtube で見ていました。リバプールももちろんですが、エバートンもファンのすごい多い人気チームですよ。Gk のジョーダン・ピックフォードは全然移籍しませんね。

（中略）最後に添付したのは現地で撮った写真です。先生の「ロンドン市内観光（8/25）」に出てくるフリーメイソンズアームです。その奥の高い建物がフリーメイソンヨーロッパ本部？（イギリス本部？）だそうです。在住の先輩に教えていただきました。もしかしたらフリーメイソンがFA創設に、もしくは今の一大サッカービジネスに関連しているのかと想起してしまいますが…。最後の写真がフリーメイソンズアーム内にあるモニュメントで、その席でFA開設に向けた会議が行われたそうです。確かお店の一番右奥の席だったと記憶しています。

ながなが長文ですいませんでした、ついサロンに参加していた時の気分になってメールしてしまいました。

いつかまたお会いできる日を楽しみにしております！

